

令和6年度第2回 東松山市総合計画審議会 会議録

開催日時	令和6年11月15日(金)			開会	13時30分	
				閉会	15時33分	
開催場所	東松山市役所 総合会館3階 303会議室					
会議次第	1 開会 2 あいさつ 3 第六次東松山市総合計画の策定に係る諮問について 4 議題 (1) 次期計画の策定に向けた分野別の取組について 5 閉会					
公開・非公開の別	公開		傍聴者数		2人	
審議会委員	委員	飯島 徹	出	委員	須田 知樹	出
	委員	今村 美代子	欠	委員	中嶋 啓一朗	欠
	委員	小野寺 亘	出	委員	中田 幸昌	出
	委員	小峰 良介	出	委員	長島 洋介	欠
	委員	椎名 孝典	欠	委員	細田 咲江	出
	委員	島田 政信	欠	委員	佐藤 幸俊	出
	委員	杉山 武志	欠	委員	関根 美沙	出
事務局	政策財政部次長 関根 隆		政策推進課長 今井 秀典			
	政策推進課活性化戦略室長 新村 久徳		政策推進課主査 元田 貴志			
	政策推進課主査 江原 友博		政策推進課主任 小池 亮			
	政策推進課主事 嶋岡 佑香					

次 第	顛 末
1 開会	(事務局開会宣言)
2 あいさつ	(小野寺会長あいさつ)
3 第六次東松山市総合計画の策定に係る諮問	(森田市長から小野寺会長に対して諮問)  (森田市長あいさつ)
4 議題 (1) 次期計画の策定に向けた分野別の取組について	<p>《次期計画の策定に向けた分野別の取組について事務局から説明》</p> <p>【資料1】 第五次東松山市総合計画後期基本計画 【資料2】 3か年実施計画書（令和6年度～令和8年度）</p> <p>【質疑応答・意見】</p> <p>飯島委員 こどもが保育園から小学校にあがった時に、早朝の預け先がなく保護者が困っているという話を聞きます。また、学童に入所できない子も増えていることから、学校の空き教室を活用したり、朝早くからこどもを預けられたりするよう整備することで、保護者の不安を解消できると良いのではないのでしょうか。</p> <p>細田委員 病気になったこどもを、働いている保護者の代わりに誰かが看病するようなサポート体制があると良いのではないのでしょうか。</p> <p>事務局 病児保育への支援は実施しておりますが、利用者の満足を得られているかは不明なため、家族だけでなく行政もサポートできるという姿勢を示しつつ、事業を検討していく必要があると考えております。</p> <p>小峰副会長 材木町で新しく整備された学童施設のように、市内にある空き家・空き地を活用し、街中に人が集まるような場所を整備していく必要があるのではないのでしょうか。</p> <p>事務局 空き家等の活用方法として、ただ人が住むためだけでなく、児童館のような居住とは違う形にリノベーションしていくことが、まちの活性化のヒントになると考えております。</p>

佐藤委員	<p>中心市街地の活性化にあたり、建物をどうするか検討する前段階として、活性化に取り組む人材づくりが必要になると思います。他自治体では、地域づくりを学ぶための学校や講座等を通じて人づくりに取り組んでいることから、東松山市においても市内外の方問わず実施すべきではないでしょうか。</p>
事務局	<p>丸広百貨店や銀行がまるひろ通りから撤退し、ぼたん通りの拡幅に伴い店舗の移転が必要となる中で、行政だけでなく商店街や金融機関の方等も含めて、中心市街地の活性化について検討していく必要があると思います。しかし、行政によるハード面の整備や補助金を出すだけではまちは続いていかないことから、キーとなる人づくりの機運をどのように醸成していけば良いか併せて検討してまいります。</p>
飯島委員	<p>病児保育の施設として、市内には「病児保育室ピッピ」がありますが、看護師を常駐させる必要があるためコストがかかります。民間ではなく公営の市民病院で、病気のこどもを一時的に預けられるような体制を整備すべきではないでしょうか。</p>
中田委員	<p>健康福祉における高齢者支援は、病気を患うと高額な医療費がかかり事業費が膨らむため、体操等を通じて健康を促している背景があります。しかし、サービスを楽しむ側にとっては、財政的な問題ではなく、自分の問題解決のためにサービスを受けるか判断するため、政策立案する際は財政面も含め、事業の目的を明確にすべきではないでしょうか。</p>
細田委員	<p>病児保育室ピッピについて、個人クリニックによる運営では認知度が低いのではないのでしょうか。市として、広域へ周知したり補助金を出したりしてサポートしていく必要があると思います。</p>
事務局	<p>クリニックへの補助は既に行っており、また保育園の入園案内冊子の中に病児保育施設について記載することで、周知も図っております。</p>
関根委員	<p>ぼたん通りの拡幅に伴い、自分が経営する飲食店も移転を余儀なくされていますが、空き店舗がなかなか見つからず、お店を再開できない状況です。このままでは駅前の飲食店が少なくなってしまうのですが、駅前をどのように活性化させていく予定でしょうか。</p>

事務局	<p>人を呼び込むための動線の整備と併せて、イベント開催や歩道で飲食ができるようソフト面についても、地元の方の意見を踏まえて整備していく必要があると考えております。協議の中で、東口だけでなく西口も含めて検討すべきとなれば、駅を中心にその周辺地域についても検討してまいります。</p>
細田委員	<p>市内の空き店舗情報を一括管理するシステムがあると良いのではないのでしょうか。</p>
小峰副会長	<p>丸広が閉店したことで、近くにある地元スーパーにお客さんが集まっています。中心市街地の再開発を行う際は、市からお店側に容積率を上げる等の条件を付けて再開発を行えると良いのではないのでしょうか。</p> <p>また、元気な子どもを育てるために、安全対策を講じた遊具を公園に設置し、楽しく遊べる場所を確保していただきたい。</p>
須田委員	<p>学童の待機状況はどうなっているのでしょうか。</p>
事務局	<p>高坂地区はこどもの数が増えているため、待機児童数が多くなっております。市全体としては、学童の性質上、低年齢の児童を優先的に受け入れるため、4年生以降の児童の入所が難しくなっていると思われまます。</p>
須田委員	<p>地域活性化の取組に活発に参加してくれる若い世代を多く呼び込むためには、子育てしやすいまちを整備していく必要があると考えます。</p> <p>例えば、学童の待機児童問題については、施設を新設するのではなく、シルバー人材を活用して預かり保育を実施したり、退職した教員に空き教室で宿題を見てもらったりするような体制を整備する方法があるのではないのでしょうか。</p> <p>病児保育については、急な体調不良で保育園等に迎えに行けない保護者に代わって、病児保育の施設職員が子どもを迎えに行き、保護者が退勤するまで一時的に預かるサービスがあると良いと思います。</p> <p>部活動については、教師の働き方改革・少子化問題により、部活動の種類が減少し、生徒が本当にやりたい部活ができていません。地域の方を外部コーチとして受け入れ、指導にあたっただけ</p>

	<p>ば、地域住民と生徒たちとのつながりが強まり、地元への愛着も湧くことから、子育て・教育・地域活性化を包括的に推進することができるのではないのでしょうか。</p>
事務局	<p>子育てが地域活性化につながるという視点を持ちつつ、将来を見据えて計画策定を行ってまいります。</p>
中田委員	<p>定年退職後の高齢者に対して、今まで培ってきたノウハウを活かす機会が少ないことから、健康維持のためにも高齢者の活躍の場を用意していただきたい。</p>
小峰副会長	<p>スポーツをしている高齢者と部活動の生徒が一緒になって練習することで、お互いの成長につながり、元気な東松山市になっていくと思います。</p>
細田委員	<p>外国人のゴミの出し方が問題になっている中で、日本語教育の一環として、言語を学びつつ、異文化交流に積極的な高齢者から日本の生活方法も併せて学べるような機会を創出すると良いのではないのでしょうか。</p>
事務局	<p>高齢者でも英語を話せる人はいるため、高齢者と外国人が交流する機会を創出できるような施策を展開していければと考えております。</p>
中田委員	<p>日本人がやらない仕事を外国人が担っている場合もあり、働きざかりの人材を確保するには外国人の雇用は必要不可欠です。地域コミュニティの中でどのように受け入れるか検討し、外国人と共存する世界を描いていく必要があるのではないのでしょうか。</p>
佐藤委員	<p>外国人と行政との接点は、現在あるのでしょうか。</p>
事務局	<p>国際交流協会の中で日本語教室などを実施しているのみです。</p>
小峰副会長	<p>外国語・日本語を相互に学び合える場を大学の講座として設置するなど、地域とのつながりを持つためのきっかけづくりを行政として考えるべきではないのでしょうか。</p>
須田委員	<p>立正大学では、留学生向けの日本文化の授業や日本語教育のプロ</p>

	<p>グラムがあるため、外国人の居場所づくりのために行政から要望があれば協力します。</p>
中田委員	<p>「外国人」といっても、日本の大学に通う外国人（留学生）と、通っていない外国人とでは、語学力や活躍の場が異なるため、行政はしっかりと区別をしていく必要があるのではないのでしょうか。</p>
細田委員	<p>地域住民と留学生が交流することで、新たな視点が生まれる可能性があるため、大学と行政で連携しながら協議していければと思います。</p>
事務局	<p>立正大学・大東文化大学とは共に地域包括連携協定を結んでいるため、学生のフィールドワークの場として東松山市を題材として使っていただくなど、今後も協力を継続して行ってまいります。</p>
中田委員	<p>高校卒業後大学進学する学生が多く、企業側は高卒人材の確保が難しくなっているため、高専のような技能継承学校があると良いと思います。</p>
飯島委員	<p>空き店舗情報について、商工観光課で行っている調査により行政は把握していると思いますが、不動産業者との兼ね合いもあるため、情報の活用方法が難しいのが課題ではないのでしょうか。</p>
細田委員	<p>リモートワークが普及し自然豊かな地方のニーズが高まっている中で、東松山市に人をもっと呼び込むために、働き方・居住・人づくりの包括的な施策が何かできないのでしょうか。</p>
事務局	<p>「第2のふるさとづくり」として、移住とまではいかなくとも、定期的な来訪により関係人口の増加を図ることで、地域の活性化につなげていくのも一つの手法だと考えております。</p>
小峰副会長	<p>少子化により学校の統廃合が行われる場合には、旧校舎をコワーキングスペースや宿泊施設として活用できるのではないのでしょうか。</p>
事務局	<p>東松山市を頻繁に訪れていただけるような施策が、移住へのきっかけづくりになると考えております。</p>

小峰副会長	<p>主要な市道において、交通量が多いのに幅員が狭いところは危険なため、警察と協議の上、一方通行にさせていただけないでしょうか。また、四季を感じながら歩いて楽しめる道路にできないでしょうか。</p>
須田委員	<p>駅近辺は駐車場の設置を禁止したり、特定の時間だけ歩行者天国にしたりして、歩きたくなるような道路整備を行うことで、人の流れが生まれ、駅周辺一帯の活性化につながるのではないのでしょうか。</p>
事務局	<p>中心市街地の活性化において、「ウォーカブル」がキーワードとなってくると思いますので、否定的な行政の考え方を改め、ウォーカブルなまちづくりを研究してまいります。</p>
須田委員	<p>休日に行われる銀座の歩行者天国はすごく良い取組だと思います。</p>
事務局	<p>歩行者天国や歩道に机や椅子を出すことは、費用をかけずに実施できるものであることから、中心市街地活性化の取組の一つとして検討してまいります。</p>
小峰副会長	<p>東京の環状2号線では、歩道を使いオープンカフェを開いています。ぼたん通りも道の広さを活用しお店を出してみれば、訪れる人も多くなるのではないのでしょうか。</p>
佐藤委員	<p>新潟市でオープンイノベーション推進事業として、地域内の課題に対して地域外も巻き込んで課題解決にあたる取組を行っているため、参考にしてみてください。</p>
細田委員	<p>観光面において、新しくするという発想も必要ですが、今あるものに付加価値をつけて再発信することで、熱海市のようにレトロさで人気が出る場合もあります。東松山市も、今あるものと新しいものを掛け合わせてみると良いのではないのでしょうか。</p>
小峰副会長	<p>市内の富久屋や川越の蔵造りの通りのように、レトロさをまちづくりにうまく活かしていけると良いと思います。</p>
中田委員	<p>駅前だけでなく市内全域に顧客を誘致できるよう、マスコミを活用し、東松山市を中心に近隣自治体も含めてPRできると良いのではないのでしょうか。</p>

事務局	行政が考える賑わいとは何なのかを明確にしたうえで、事業者と一緒に市を盛り上げていけるような計画を策定してまいります。
細田委員	「小江戸川越」のような冠名詞は東松山市にもあるのでしょうか。
事務局	「埼玉のへそ」、「埼玉のだ真ん中」、「住みよさランキング3年連続県内第1位」、などです。
細田委員	住みよさは、何が評価されているのでしょうか。
事務局	水道料金が安い、緑が多い、社会増により人口が増えているところが評価され、1位を獲得しています。
細田委員	人を呼び込む際、評価されている部分をもっとアピールしていく必要があるのではないのでしょうか。
小野寺会長	<p>どんな事業も1つの課で収まるようなものはありません。1つの課だけで検討しても良い政策は出てこないことから、政策推進課でプロジェクトチームをつくり、庁内全体で考えていく必要があるのではないのでしょうか。</p> <p>また、本日会議の中で出た意見についても、十分に検討していただければと思います。</p>
5 閉会	
関根次長	<p>(関根政策財政部次長より御礼のあいさつ)</p> <p>(事務局閉会宣言)</p>
<p>上記会議の顛末を記載した内容について、相違ないことを証します。</p> <p>令和6年12月23日</p> <p>署名委員 <u>佐藤 幸俊</u></p> <p>署名委員 <u>細田 咲江</u></p>	